

Bao T, Patil S, Chen C, et al. Effect of Acupuncture vs Sham Procedure on Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy Symptoms: A Randomized Clinical Trial. JAMA Netw Open. 2020;3(3):e200681. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2020.0681.

1. 目的

がん生存者のQOLを悪化させる化学療法誘発性末梢神経障害(CIPN)への鍼治療、偽鍼治療、通常ケアの効果を比較し、忍容性が高く、エビデンスのある介入を検討する。

2. 研究デザイン

単施設、3群(鍼治療:偽鍼治療:通常治療=1:1:1)、並行群間ランダム化比較試験

3. セッティング

Memorial Sloan Kettering Cancer Center (New York, アメリカ合衆国)

4. 参加者

中等度から重度のCIPNを有する固形腫瘍患者75名(年齢中央値[四分位範囲]59.7[36.3-85.9]歳;女性60名[80%];白人55名[73%];乳がん40名[53%]および大腸がん12名[16%])

5. 介入

◆鍼治療群(24名)

耳:両側の神門、ポイントゼロ、電気皮膚信号が活性化した耳ツボの3穴6箇所
に0.16×15mmの鍼で2mm置鍼(30分)

体:両側LI4(合谷)、PC6(内関)、SI3(後溪)、LR3(太衝)、GB42(地五会)、ST40(豊隆)、Bafeng2(八風の2番目)、Bafeng3(八風の3番目)に0.25×30mmまたは40mmの鍼で12.5mm置鍼、得氣を得た。また、両側LR3(陰極)とGB42(陽極)を、2~5Hzで20分間通電

◆偽鍼群(23名)

非経穴への接触鍼を行った。

◆通常ケア群(21名)

試験期間中、クリニックを訪れ経過の評価が行われるのみで、いかなる介入も受けなかった。

6. 主要評価項目

CIPN症状(うずき、またはしびれ、痛み)の重症度を、8週目のNRS(11段階評価、0=症状なし、10=想像しうる最悪の症状)により評価した。

7. 主な結果

通常ケアと比較して、鍼治療では痛み、うずき、しびれが有意に減少した。CIPNの痛みの平均絶対減少量は、鍼治療で最も大きく(-1.75 [95% CI: -2.69, -0.81])、通常のケアで最も小さかった(-0.19 [95% CI: -1.13, 0.75])

8. 結論

通常ケアと比較して、鍼灸治療はCIPNの症状に有意な改善をもたらした。

9. 論文中の安全性評価

有害事象は少なく、軽度であった。

10. JSAMエビデンス委員会コメント

CIPNの治療は麻薬、抗うつ剤などによる対症療法に限られるが、効果は少なく副作用も伴う。鍼治療はCIPN症状の緩和に有効とされるが、この研究では偽鍼と非治療を対照群とした並行群間ランダム化比較試験を行いその信頼性が高められた。サンプル数が少ない、単一施設、短期間などの条件に制約があること、並行群間比較により一人の患者において実鍼と偽鍼、非治療のそれぞれを検討できないのが問題であるものの、CIPNに対する鍼は安全で効果的であることが示唆された。

11. 情報抽出・和訳・コメント担当者および日付

杉浦雄 2023.6.1